

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】令和 2 年 9 月 10 日 (2020.9.10)

【公開番号】特開 2018-95239 (P2018-95239A)

【公開日】平成 30 年 6 月 21 日 (2018.6.21)

【年通号数】公開・登録公報 2018-023

【出願番号】特願 2017-187335 (P2017-187335)

【国際特許分類】

**B 6 0 H** 1/32 (2006.01)

**F 2 8 D** 1/053 (2006.01)

**F 2 8 D** 20/02 (2006.01)

**F 2 5 B** 39/02 (2006.01)

【F I】

B 6 0 H 1/32 6 1 3 C

F 2 8 D 1/053 A

F 2 8 D 20/02 D

F 2 5 B 39/02 C

B 6 0 H 1/32 6 1 3 K

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 28 日 (2020.7.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

左凸部(25A)は、熱伝導部材(23)のベース板(24)に形成された前後方向に長い四角形状貫通穴(28)の縁部の対向する前後 2 辺に連なって一体に設けられ、かつ貫通穴(28)の内方に向かって蓄冷材容器(15)の左側壁(15a)側に斜めに突出した 2 つの突出片(25a)と、両突出片(25a)の先端どうしを一体に連結し、かつ蓄冷材容器(15)の左側壁(15a)に面接触した状態でろう付された接触片(25b)とよりなる。右凸部(25B)は、熱伝導部材(23)のベース板(24)に形成された前後方向に長い四角形状貫通穴(28)の縁部の対向する前後 2 辺に連なって一体に設けられ、かつ貫通穴(28)の内方に向かって蓄冷材容器(15)の右側壁(15b)側に斜めに突出した 2 つの突出片(25a)と、両突出片(25a)の先端どうしを一体に連結し、かつ蓄冷材容器(15)の右側壁(15b)に面接触した状態でろう付された接触片(25b)とよりなる。左右両凸部(25A)(25B)および貫通穴(28)は、ベース板(24)に互いに平行となるように入れられた上下 1 対のスリット間の部分を突出させることにより形成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

図 7 に示す第 2 の変形例の熱伝導部材(35)の場合、左凸部(36A)は、ベース板(24)に形成された略正形状貫通穴(37)の縁部の対向する前後 2 辺に連なって一体に設けられており、貫通穴(37)の内方に向かって蓄冷材容器(15)の左側壁(15a)側に斜めに突出した 2 つの突出片(36a)と、両突出片(36a)の先端どうしを一体に連結し、かつ蓄冷材容器(15)の左側壁(15a)に面接触した状態でろう付される接触片(36b)とよりなる。右凸部(36B)は、ベ

ース板(24)に形成された略正形状貫通穴(37)の縁部の対向する前後2辺に連なって一体に設けられており、貫通穴(37)の内方に向かって蓄冷材容器(15)の右側壁(15b)側に斜めに突出した2つの突出片(36a)と、両突出片(36a)の先端どうしを一体に連結し、かつ蓄冷材容器(15)の右側壁(15b)に面接触した状態でろう付される接触片(36b)とよりなる。左凸部(36A)および右凸部(36B)の上下方向の幅は、上述した実施形態の左凸部(25A)および右凸部(25B)の上下方向の幅よりも広がっている。